



夜な夜な短歌集 第16巻 2019年 冬号

光は、どこに？

題「光」



魔女ルチアの渴き

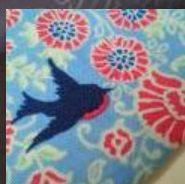
一度くらい溺れてみては如何かと千年振りの恋は目前

ビリビリと稲妻走った瞬間に護りの林檎を取り落とした

いくつまで生きてられるか分からない人間なんかが愛を誓うな

ルチアはラテン語で「光」。不老不死も悲しいものです。

レイ



光の画家

耳もとの真珠が揺れた一瞬に知るああ恋に落ちてしまった

絵葉書を挟んだ手帳そつと撫でこころに映す静かなる青

北窓や三百五十年前の光は現代いまのわたしにも降る

モチーフとしたフェルメール作品は、

真珠の耳飾りの少女、青衣の女、手紙を書く女、です。



h a n a k

朝光

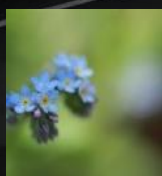
光と書いてかげと読ませる豊かさを朝日の中に見い出すよろこび

雲間からさしこむ光ひとすじを希望と呼べば開ける朝

気付かずに包まれているしあわせはたとえば曇天にあふれる光

みちくさい

和歌が読みたい



シカミツ

枝先にふくらむ春をゆるめてく白い光に両手をかざす

ひとつぶの雫のようでひとすじの光のようであなたをおもう

朝焼けの冷たさ肺に取り込んでゼロからわたしをはじめましょうか

冬の朝は、しめやかなはじまりのにおいがします。



seri

それがあなたの

ひんがしのサインコサインタンジエント 天窓からの光は斜辺

秘めている色を蕾は思い出す 春と光が交差してゆく

あたたかくかしくこくあかるく光ること それがあなたのなまえのゆらい

れいぽ

夫も子供も名前に光を持っています。

平成最後の冬に「光」を詠めてよかったです……!!



気づき

祖母の言うiPadはひらがなめいて冬の西日に浮かぶ横顔

麗らかな陽射しを放ち幼子は角を綺麗な丸へと変える

秋の日の薄日程度の熱量が見守るための最適と知る

雪(永山 雪)

人が放つ光、人を照らす光に気付く、柔軟さを持った人でありたい。



声

はじまりはひかりの声をきくようにピアノツシモで刻むトレモロ

メロディとともにひかりはうねりだす やがて最後列の席まで

拍手の音がとぎれぬうちにステージのひかりしずもり闇となりゆく

太田青磁 (Sage)

「光は希望」ではじまる校歌を持つ学校に通っていました。
その頃の記憶を思いだしながら作りました。



およぐ

夢のなか魚を見たよ、だから今日水族館にそれを探しに

波うって光がうねる青緑やわらかにそそぐふゆの陽光

窓だよとあけはなたれた真四角の光の海へ泳いで逃げる

さかなになって泳ぐ夢を見てみたい



June

愛というもの

手のひらをふたり合わせてみつめてる君の瞳にうつる私は

ひゅうひゅうと星のかけらが降っていてほら手のひらが染まって青い

月光の白きを見れば唐突に生命をおびる愛というもの

ふみ

短歌つてむずかしー、と思う今日の頃です。

著者近影

光束と拘束

破顔するあなたの笑顔ときめきの瞬く光に捕獲される

拘束という名のキスを爽やかにするあなたは悪魔の化身か

艶やかなあなたの糸が絡まって身動き取れない雁字搦め

好きになることによって必ずしも楽しいことばかりではない。
だからこそ光とともに影が存在するんだ。



ess

光のある景色

皿に醤油がなみなみ残り居酒屋の蛍光灯を照り返してる

田園のただ中にあるコンビニが祭りやぐらのように輝く

光のごとく雪降る朝の味噌汁の里芋白くわずかな頭痛

どこかで見たような……という光のある景色を集めてみました



テイ

Prudential
Financial

屈折

透明と信じてたのに陽の光のようにホントは腹黒くて

フローリングに落ちて砕けてキラキラと多分私の夢だったはず

水槽を通す景色は虹色でも歪んでる心みたい

七色一味

まさか平成最後の歌会始めと同じお題をぶつけてくる
とは思わなかったよ。



耳を澄ませて

黒板消し一度も頭に落ちてこない教員人生なんてあるのか

柔道の受け身練習目を閉じて音だけ聞いていたら海です

ぼうっと光り輝きながら世界中のたて笛が浮く国ごとに違う高さで

ちやありい

まだまだ先だと思っていたのですが時間が経つのは早いですね。
4月に第一歌集が出ます。よろしくね。



月光

真ん丸の月の中から降りてきた蛍のようで冷たい雪は

かまくらに開いた穴から覗き込む尖った月が何故かぼやける

紅い月、やけに近くに寄ってくる 近すぎるから顔が火照って

nonたん

月の光が子供の頃から好きでした。
うたの中で光ってくねるうたのこと。



冬の陽

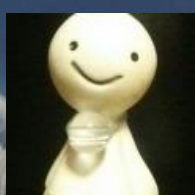
吐く息に虹がかかった気がしてる始まりとしちや上々な朝

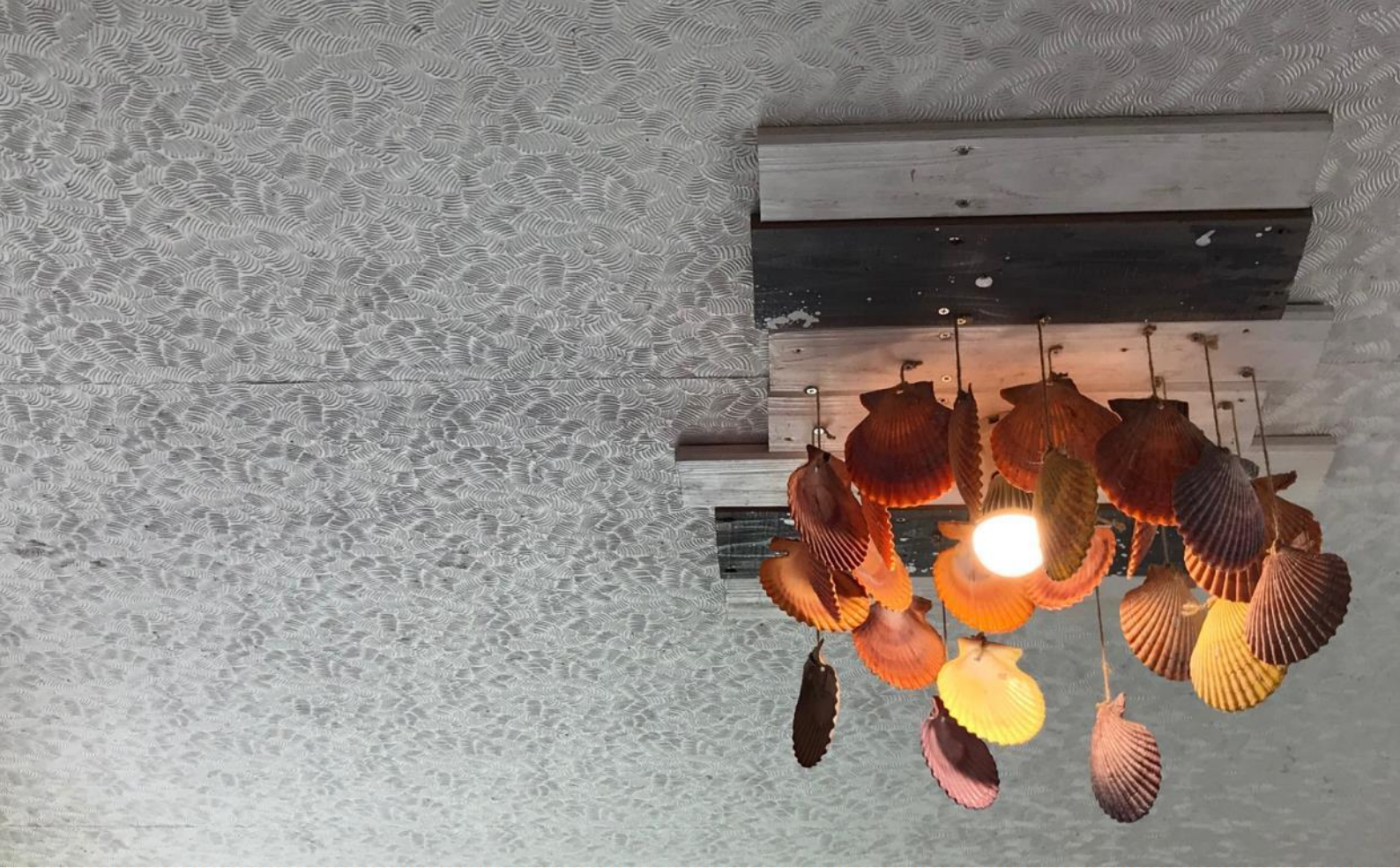
冬の陽が俯くでこから染みてきてじんわり滲むなんだよ、ばあか

最後まで残る光は嘘の赤ままにならない情熱の色

てる

今回はどシンプルに「光」お天道さんでひとつ。





編集後記

“平成最後の”歌会始の題は、「光」。図らずも同じ題となりましたが、夜な短の「光」は、さらに平成の雰囲気をもとっているのではないのでしょうか。詠み人それぞれが、光を感じ、受け止め、また、時には放つ。お楽しみいただけたら、うれしく思います。

そして、いつも参加してくれるお二人の歌集が、いよいよ2019年4月に書肆侃侃房から刊行されます。

戸田響子さん（ティさん）と小坂井大輔さん（ちゃありい）、おめでとうございます。タイトルは何だろう？どの歌が、収録されるかな？今からわくわくしています。

企画・編集・写真 momonga（もも）

夜な夜な短歌集第16巻2019年冬号／2019年2月発行／企画・編集 momonga（もも）

- 当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい。使用する際は、事前に確認していただくようお願いします。歌集の紹介や読書メーターでのレビューは大歓迎です。
- 『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーターにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？ [*夜な夜な短歌人による 夜な夜な短歌コミュ](#)をみる